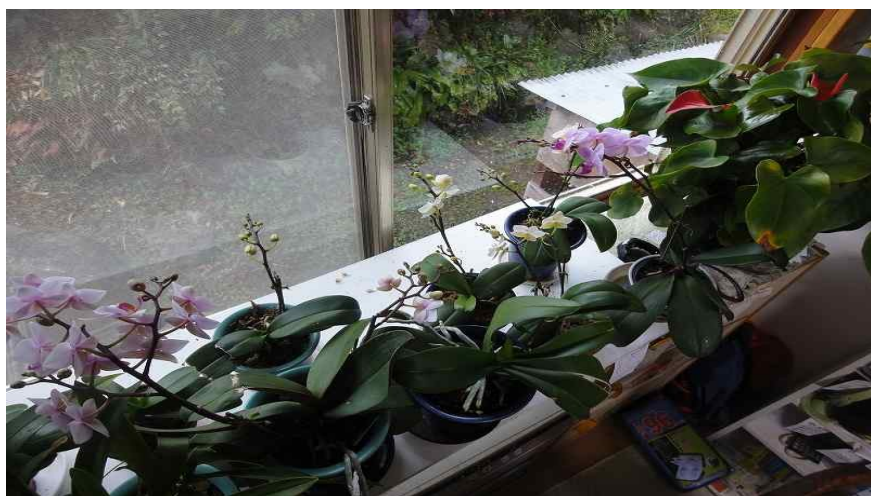


コラム21:私の洋ラン栽培

私の家の窓辺で、冬の間じっと寒さに耐えていた花たちが、一斉に咲き始めました。主にミニファレで、あとはオンシ、パフィオ、ミニカトレアなどの洋ランですね。そうそう、アンスも2鉢あります。ほとんどの株が去年の年末頃から花芽を付け、今は見事に咲いていますよ。これらの多くは、私が買って人にあげ、花が終わって返ってきたものです。それを小鉢に植え替え、1年管理して再生させてものなのです。だからこそ「どや、ようできとろう」と自慢したいわけです。

だからと言って、特別な設備や管理をしているわけではありません。よく陽の当たる南側の窓辺に、ホームセンターで買った20cm幅の板を置いているだけです。冬場の暖房も、私たちがいる夜の時間帯は入れますが、夜間や昼間は無加温状態です。ですから、真冬の深夜から朝方にかけては、かなりの冷え込みになるはず。私は毎朝6時には起床しますが、7-8度になっていることは何度もありました。私たちが寝る前の暖気が、部屋に残っているから、枯れるギリギリのところで生き残ったのでしょうか。



あと注意したことは、夜は冷気が当たらないように、必ずブラインドを下ろすこと。昼間は、花芽のついている方を日の当たる方へ向けてやること。そして、一番気を使ったのは、水やりの間隔ですね。冬場はあまり水をやらないのが原則ですから、普通は5-7日間隔ですが、素焼き鉢の水苔植えと、化粧鉢のバーク植えでは水の乾きの早さが、全く違うので、頻度が違ってきますね。私は冬場でも、暖かい日をねらって、薄めの液肥を、水と交互にやりましたが、とくに害はなかったようで、順調に生育しました。支柱立てや、植え替えなどをマメにやることも、怠ってはいけませんが、何より大切なのは、「花への愛情」でしょう。



もう一つの私の洋ラン栽培は、シンビジュームです。父は80歳になった時に、生産者としてのハウス経営を終了しました。その際に、自分の趣味として、100鉢程度残していたのです。5年前に父が脳梗塞で倒れてから、私が引き継いで世話をしてきたのです。2年前に父の建てた鉄骨ハウスを解体してからは、かなり古株を整理し、去年は50鉢、今年は30鉢程度まで減らして、イチゴのビニールハウスで育ててきました。

去年は、8寸から10寸位の大鉢に植え替えし、肥料を春から夏にかけて、たっぷりとやったせいか、無加温栽培にもかかわらず、我ながら感心するほどに、よくできました。特に尺鉢に植え替えたものは、10本位見事な花をつけた株がいくつも出来ました。いかんせん古株なので、葉の状態が悪く、市場には出せず、切り花として、地元の直販所に出したり、親しい人に差し上げて、捌かしましたね。



洋ランの中でも、シンビは私にとって特別の思いのある花です。市場に勤務している時も、秋になって、シンビが場内を彩る季節になると、何となく気持ちが高揚し、元気になってきたものです。父はこの花を見てハウスの中で仕事をする事で、生きるパワーをもらっていたのだでしょうね。花には、そのような力と魅力があると思いますね。

しかし、父が30年、私が5年、合計35年の長きにわたって、付き合ってきた、この花「シンビジューム」とも、お別れのときが来たようです。古株になって、今年の出来が良くなかったこともありますが、一番の問題は、置き場がないことです。昨年置いていたベンチはイチゴ栽培の棚に占領され、今年はハウスの隅で、なんとか花を咲かせている状態です。今年の秋には、イチゴ受粉のために、初めてミツバチを導入予定ですので、この花の居場所がなくなったわけですね。二兎を追うものは一兎も得ず一私としてはイチゴを取るしかないのです。父から引き継いだ花を捨てることは、父と2度目の別れをするような寂しさを覚えますが、これは仕方のないことなのです。



下の写真のシンビは、正式名を「シャイニー・ヒロシマ」といいます。父が好み、自分のオリジナル品種として、力を入れて栽培していました。葉状が悪いので切り花用ですが、花型も咲き方も花色も、すばらしい品種でした。残念ながら、年末に咲かず、年明けの1-2月に出荷という状態でしたので、あまり儲からなかったようですが、父も私もこの花が好きでした。これも今年限りで、この世から姿を消します。ですから、これが最後の別れの記念写真となりますね。



「花市場に入るまでは、花のことをな一んも知らんし、ひとつも興味もなかったもんよ。ほいじゃが、市場に33年勤めたけえ、花が好きになったんかもしれんのう」

('13・4・7)